International Association of Music Libraries, Archives and Documentation Centres
Japanese Branch

No. 54

NEWSLETTER

国際音楽資料情報協会日本支部

September 30 2015

ISSN 1347-7277

第 58 回研究例会・2015 年総会報告

【目次】

第 58 回研究例会
IAML 日本支部の課題　荒川恒子　1
玉川大学教育博物館における音楽資料
―ガスパール・カサド及び原智恵子関係資料を中心に―　栗林あかね　5
傍聴記　西巻悦子　8
2015 年総会報告　10
御寄付のお願い　14

【第 58 回研究例会】

国際音楽資料情報協会 (IAML) 日本支部の課題

荒川恒子

IAML に属しておられない方は当然ながら、会員でさえ「IAMLって何をする団体なの」とか、「何だか敷居が高そうで…」と積極的な参加をしり込みされる場合が多いと小耳に挟みます。そのような感じ方があるとすれば、何が原因なのか、どうすれば良いのかといった課題は、たえず他人事のように先送りされてきた感があります。しかし第 57 回研究例会において、例会委員のひとり岸本宏子氏より、1951 年の IAML 設立の事情と 1979 年日本支部設立とその後の支部活動等に関して、コンパクトに説明がなされました。この例会に出席にされた方からは異口同音に、国際協会に属する支部とは何を意味するのか、本来日本支部はどのような活動をすべきなのか等々、お尋ねがありました。そこでたとえ小さな一歩であろうと、会員各位が活動できる場を持てると感じられる、協会のあり方を巡って共に考えるべき時期が到来していると考えました。今回は IAML 本部および日本支部のホームページから学べる事、また発表者が出席した国際大会での体験談を通して、将来に向けての一歩を見出すきっかけを探して欲しいと考えて、お話させていただきます。

まず IAML 日本支部の目的とするものは、支部規約第 2 条「目的」において、明記されています。すなわち以下の通りです。

国際音楽資料情報協会の支部として、国際音楽資料情報協会が行っている国際的な事業を日本国内において推進し、その活動を支援することを目的とする。具体的には、以下の点が主要目的となる。

1. 音楽および音楽資料に関係のある図書館、文書館、ドキュメンテーション・センターにおける活動と調査研究を奨励し推進すること。さらに、この領域における諸団体および個人間の相互協力をさらに密接なものとすること。また、その活動成果の出版を奨励すること。

2. 音楽図書館、文書館、ドキュメンテーション・センターのもつ文化的重要性が、日本国内においてさらに広く理解されるよう、働きかけること。
3. 日本国内における音楽書誌、音楽ドキュメンテーション、音楽図書館学の様々なプロジェクトに関して、それが容易にされるよう、支援を行うこと。
4. 音楽に関するあらゆる出版物および資料の入手を容易ならしめ、とくに国内および国際間における交換・貸借を奨励すること。
5. 本団体の活動に関連するあらゆる領域において、水準の向上を計ること。
6. 専門的な教育と訓練とが、適切な形で、広く行われるよう、その実現につとめること。
7. 音楽関係のあらゆる種類の資料に関する、書誌コントロールを推進すること。
8. あらゆる時代の音楽資料の保護および保存を支援すること。
9. 図書館学、書誌学、古文書学、ドキュメンテーション、音楽、および音楽学の領域において、他の諸団体と共同作業を行うこと。

以上は本協会全体の「目的」のいわば邦訳です。さらに本部と支部の関係に関しては、本部条項 VI- National and Multi-national Branches（各国およびいくつかの国の合体からなる支部）において、以下のように規定されています。すなわち
1. 支部の主要目的は、協会が国際的に行う仕事を、国レヴェルで行う。そして協会が必要と認める行動に協力すると共に、各地域でその国が必要とすることに尽力する。
2. 支部は協会の下にあり、それと相いれないことがあってはならない。
3. 支部代表者フォールムにおいて、本部役員に支部に関わる事柄、その他協会の直面する問題に対して、助言する。

荒川恒子支部長

4. 各支部はフォールムにひとり、代表者を出席させる。
5. フォールムは毎年のコングレスの間に開催される。

実に広範で多岐に渡る内容が漠然と言及されているため、実際には何をどのようにすべきなのでしょうか、と尋ねられたら、答えに窮してしまいます。私は支部長に就任した翌年の 2003 年のエストニア大会へ出席後、ほとんど毎年参加しつつ、資料情報を巡る世界の、いやむしろ欧米の活動状況を観察し始めました。この約 10 年は大きなコレクションを所有する図書館が、それをデジタル化してネット上で公開し始めた時代です。以前は資料の問い合わせ、マイクロフィルムでの取り寄せ等々は、費用も時間もかかり、それでも入手できればありがたいといった、研究者にとってはまさに手間暇のかかる作業でした。ところが今では涎のでそうなコレクションを、簡単にダウンロードして無料で勉学に利用できるのです。年ごとに順を追って紹介されたスウェーデンのデューベン・コレクション、フランスのガリカ、ドレスデンのシュランク II 等々、そこに入れ込まれる情報やそれを構築するためのシステム、ホームページへのア

クセス方法等の説明があり、利用者側である私には興味深い発表が続きました。もっともデジタル化するにあたっての技術面の問題等に関してはちんぷんかんぷん。多くの国で採用され始め、日本の国立国会図書館でも採用を宣言した RDA や VIAF が何であるのか、採用にあたってはどのような問題があるのか等の議論に関しては、全くの門外漢です。皆の活発な議論を尻目に、居心地の悪さを感じてしまいました。

さて私が初めて支部長に選出されたのは 2002 年のことです。それから 2005 年に再選、一期休みの期間を挟んで 2011 年には金澤正剛支部長のもとで、副支部長を、そして 2014 年からは再度支部長を拝命しています。職責を担うことになった私が心掛けたことは、本部（本部とは現在はニューヨークにいる会長、スウェーデンはヨーテボリの事務局長、ドイツはデュッセルドルフの会計係り、その他ポーランド、イギリス、ベルギー、カナダにいる副会長等が、それぞれ役割分担をしています）、その他様々な専門部会や委員会、『フォンテス』の編集長からのお問い合わせに対して、速やかに返答することです。事実この仕事、つまり支部の義務は果たしてきたと自認しています。様々な質問は国際会議直前には本部から、さらに 3 年ごとに選出される専門委員会のメンバーからは適宜、各支部長に送られてきます。私の就任時期の初期にはコピーライト・コミティー、アウトリーチ・コミティーの活動が活発で、日本からも国際会議に初めて出席される若手に、寄付金を支給していることは御存じの通りです。私が支部活動の一端として、エストニア大会でそのことをお話した時に、大いなる関心が寄せられたことを鮮明に覚えています。またコピーライト・コミティーからのアンケートには、国立音楽大学附属図書館に勤務しておられた市川啓子さんの御協力を以て、きちんと回答できたことも、小さな喜びのひとつです。いわゆる R-Project に関しては、日本の RILM 委員会は IAML からも委員を選出し、他の組織と提携して定期的に本部に報告をすると共に、『フォンテス』に新刊紹介の記事を送っています。また RISM 委員会は設立されていませんが、国立音楽大学附属図書館等所蔵の資料等の詳細は本部に送られています。さらに『フォンテス』の要請に応えて、最新ニュース及び支部報告の原稿を提供しています。また本部からの要請通り、毎大会における代表者会議には支部長が出席しています。

国内活動としては、年 2 回目的に即したテーマを設定して行われる例会、さらに例会後には、会員各自が自由に参加して気楽におしゃべりを交換できる懇親会を設けています。定期的に年 3 回のニューズレターを発行し（そこには必ず国際大会報告号があります）、ホームページも速やかに更新しています。一応支部としての責任は果たしているといえましょう。では何が不足しているというのでしょうか。

例会での提案時には漠然としていた日本支部の課題、不十分な点、今後どのような目的を持ってこの協会を率いていくべきか、日本の現状の中で実際にできることは何か、将来に望みを託せる点はなにか等々、それ以後も考え続けています。そのような時に、皆様のお手元に *Fontes Artis Musicae* Vol.61/4 2014 が届けられました。アントワープ大会の総括ともいえる内容です。この号の目次を見ると、IAML に所属するメンバーの活動状況、すなわち上記の「目的」で抽象的に記述されていたことが、現在の図書館、文書館、アーカイヴ等を取り巻く状況の中で、具体的にはどの

ような活動として具現化されているのかが、見えてくると思います。

さて IAML 全体の国際的な活動は、以下のように細分化されています。

Professional Branches 部会（館種別）、Subject Commisions 委員会（専門別）、Working Groups 作業部会、Committees 委員会（特定主題別）です。館種別部会は「文書館とドキュメンテーション・センター」「放送局とオーケストラの図書館」「音楽教育機関の図書館」「公共図書館」「研究図書館」に分類されています。我が国で団体会員として所属している図書館は、主として「音楽教育機関の図書館」です。この点ではさらにタイプの異なる機関にも、参加を呼びかける努力が必要かもしれません。

委員会や作業部会に関しては、時流と共に活動内容の変更を余儀なくされたり、散会また新たな設立があります。アド・ホク委員会は、目下組織全体の見直しや、規約改定のための仕事を続行中です。専門別委員会の下には、「書誌委員会」「視聴覚資料委員会」「サーヴィスと養成委員会」「目録委員会」とその下部委員会である「ISBD と音楽」「UNIMARC」があります。作業グループとしては「音楽アーカイヴへのアクセス」「音楽エフェメナへのアクセス」「アドヴォカシー」、 特別主題別委員会としては「会議」「組織構成」「コピーライト」「メンバーシップ」「アウトリーチ」「プログラム」「出版、紙媒体と電子」、R-Project とその他の関連プロジェクトとしては「RISM」「RILM」「RIdIM」「RIPM」「IAML-L」「International Standard Music Number (ISPM)」等が存在し、委員の活動は適宜に行われる各支部への調査や質問、国際会議中での議論、総会での発表等からなります。これらの部会や委員会の議論の中心は、図書館以下の現場で働く方にとって切実な課題です。なおこれらの委員会で活躍する機会は、支部の意向等により得られるのではなく、各人の積極的な参加の御申し出によりなされます。日頃も勿論ですが、国際大会に参加なさる場合、関心のある部会や委員会の発表にターゲットをあてて参加なさることは、各人が関心事を見出すための手掛かりとなりましょう。将来は国際的な協力のできる積極的な方が、日本支部からも出てきて欲しいと願っています。まずは *Fontes* 61/4 から興味のある課題を拾い読みすることをお勧めいたします。また支部全体としても、会員の活動をサポートし、共同作業等ができる分野を模索したいと思います。

（あらかわ つねこ IAML 日本支部長）

☆ ☆ ☆

【お知らせ】

2016 年度 IAML 国際大会はローマで ～ 発表を募集中 ～

来年の IAML 国際大会は、IAML イタリア支部、サンタ・チェチーリア国立アカデミー共催によりローマで開催される。会期は 2016 年 7 月 3 日（日）より 8 日（金）の 6 日間で、会場は市内の Auditorium Parco della Musica。IAML 本部では発表を募集中である。

大会プログラムは開催地との関連でイタリアの音楽図書館、特別コレクション、楽譜出版社およびライブラリアンと演奏家の連携などに焦点があてられているが、より広範なテーマのもとでの発表も予定されている。募集は音楽全般、コレクション、音楽図書館等を主題としたもので、発表時間は質疑応答を含む 30 分。使用言語は英語、ドイツ語、フランス語のいずれか。応募には要旨（400 words 程度）の提出が求められている。締切りは本年 11 月 10 日。詳細は下記まで。
http://www.iaml.info/call-for-papers

【第 58 回研究例会】

玉川大学教育博物館における音楽資料 ―ガスパール・カサド及び原智恵子関係資料を中心に―

栗林あかね
（玉川大学教育博物館）

はじめに　玉川学園・玉川大学について

玉川学園は、1929 年（昭和 4 年）に創立者小原國芳（1887-1977）により「全人教育」を第一の教育信条に掲げて、現町田市の丘陵地帯に開校されました。生徒数全 111 名、教職員 18 名によってスタートした学校は、現在 K-12（Kindergarten to 12th）、大学（文学部・農学部・工学部・経営学部・教育学部・芸術学部・リベラルアーツ学部・観光学部）・大学院まで約 1 万人が約 61 万平方メートルの広大なキャンパスに集う総合学園に発展し、幅広い教育活動を展開しています。

1.　玉川大学教育博物館について

◆施設概要

館の正式名称は、「玉川大学小原國芳記念教育博物館」といい、「玉川大学教育博物館」は通称です。昭和 44（1969）年に、館の前身である小さな資料室が開設されて以来 47 年、玉川大学高等教育附置機関として現在の名称及び組織となって 20 年を迎えました。当館は、全人教育の理想具現のため、資料収集・調査研究・整理保存・展示・教育・関連事業等の活動を実践しています。本学園創立者・小原國芳は、教育の内容には人間文化の全部を盛らなければならないと説き、教育の理想を「真・善・美・聖・健・富」の 6 つの価値を創造することにあると位置づけました。調和ある人格を持った「全人」を育てるため、教育に心血を注ぎ、「一流」を子供たちに体感させるため奔走する創立者の「教育に対して何事も惜しまない姿勢」は、現在の玉川学園の教育活動にも脈々と受け継がれています。

◆活動内容

当館が収集する資料は、日本教育史、芸術、民族、考古、創立者小原國芳関係、校史関係など多岐にわたり、現在整理されている資料では約 4 万点、未整理分を含めると 6 万点近くとなります。これらの所蔵コレクションをもとに、常設展示や企画展示をはじめ、教育活動や情報資料の公開など幅広い活動を展開しています。教育活動としては、K-12 から大学までと連携して、学習を支援するとともに、「本物に触れよ」という創立者の想いの下、五感に訴える教育プログラムを積極的に展開しています。また、当館は東京都教育委員会より博物館相当施設としての指定を受け、広く社会に開かれた博物館としての使命も備えており、通学過程、通信課程の学生の学芸員資格取得のための授業を行っています。

所蔵資料の中でも、当館の中核を担うのは、旧外地（満州・台湾・朝鮮）教科書、イコン（聖像画）、ジョン・グールドの鳥類図譜です。特に、これらの特色ある企画展は学内外問わず多くの皆さまに関心を持っていただき、これまでにたくさんの方々に見学を頂き好評をいただいています。なお、常設展・企画展とも無料公開となっていますので、お気軽にお越しいただければ嬉しく思います。

2.　音楽資料について

当館の音楽資料のまとまったコレクションとして、ガスパール・カサド（1897-1966）及び原智恵子（1914-2001）関係資料、東敦

ガスパール・カサド、原智恵子夫妻

子（1936-1999）関係資料、石丸寛（1922-1998）関係資料を所蔵しています。音楽資料の企画展として、これまでに「プリマドンナ東敦子の世界展（2000）」、「特別展　石丸寛第九によせて（2007）」をそれぞれ開催しました。また、平成 9（1997）年に開催した「カサド生誕百年記念祭　記念コンサート」の際には、演奏会場ロビーにて、カサド・原資料の展示を行いました。そのほかの音楽資料としては、梁田貞（1885-1959）や岡本敏明（1907-1977）など、玉川学園の音楽教育に関係のあった音楽家たちの、手稿や出版譜などの一部を所蔵しています。

3.　ガスパール・カサド及び原智恵子関係資料について

◆資料受入の経緯

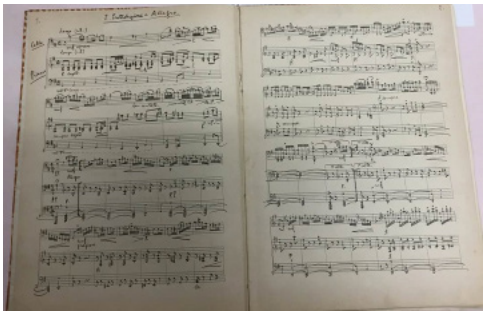
平成 2（1990）年秋、日本人初のショパンコンクール出場者でピアニストの原智恵子氏とそのご家族から、ガスパール・カサド・原智恵子夫妻の音楽活動に関する資料を寄贈いただきました。ガスパール・カサド（Gaspar Cassadó, 1897-1966）は 20 世紀初期から中期にかけて活躍したスペインの音楽家・チェリストであり、その妻原智恵子（1914-2001）は、戦前から戦後にかけて国内外で活躍した日本人ピアニストです。寄贈された資料の概要は、楽譜、レコード等の録音資料、演奏会プログラム・チラシ、図書、写真、書簡、演奏会評など、加えて、フィレンツェの自宅で愛用していたスタインウェイのピアノ、カサドの没後フィレンツェ市と共催で開催された、「カサド国際チェロ・コンクール」関係資料などから成り、夫妻の音楽活動に関するもののほとんどとなります。これらの資料群は、カサド・原両氏のフィレンツェの自宅から、60 箱を越えた数の段ボール箱が当館へ直送されました。これらの資料のうち、現在、受入番号の付与されている点数はおおよそ 6 千点ですが、番号付与の資料形態・レヴェルの統一に不安が残るもの、また、番号を付与されないでいる資料もあります。今後、資料整理を進めていく中で、受け入れ番号を持たない資料の取り扱いや、将来的に新たな請求番号の付与やについて検討していく予定です。

◆カサド生誕百年祭

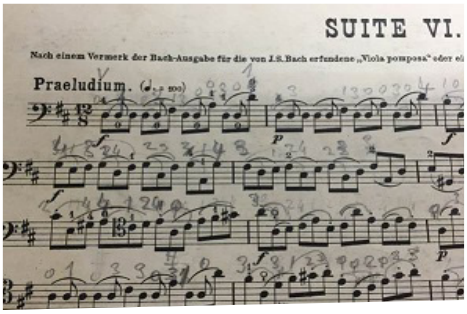
本資料は当初、受入番号が付けられた後で、資料種別ごとの整理が行われました。平成 9（1997）年秋には、カサド生誕百年祭と冠して、当時まで未発表だったカサドの作編曲作品の出版と記念コンサートを、本学園講堂で開催、その際、ロビーにおいて資料の一部を展示しました。その後は、問い合わせに応じて資料を公開していました。

◆カサド・原プロジェクト発足

近年になって急増した、カサド・原両氏に対する国内外からの研究者の問い合わせや、関係者などからの再評価の声が上がったこと



Gaspar Cassadó. Sonata en el estilo antiguo español para violonchelo con acompañamiento de piano（1924）
自筆譜（ペン書）　（玉川大学教育博物館蔵　35-1-16）



カサドによる運指の書入れ
J. S. Bach. Sechs Suiten für Violoncello Solo. Leipzig : Steingräber, [1935]. Suite VI . 冒頭部分　（玉川大学教育博物館蔵　34-0-5）

も受け、音楽資料の特性に沿った体系的な整理を行うため、平成 24（2012）年 4 月、「ガスパール・カサド及び原智恵子関係資料整理・調査プロジェクト」を立ち上げ、当館と学内外の研究者・有識者の参画を得ることとなりました。本プロジェクトは、「カサド・原資料を一般に公開し、国内外の研究者などへ提供することで資料の価値を高め、人びとに正確な情報を伝えること、そして人類共有の遺産として次世代へ伝えていくこと」を主たる目的として発足しました。

4.　プロジェクト発足以降の資料整理について

初年次は、カサド・原資料の所在、プロジェクト発足以前に作成されたデータの復元などを中心とした確認、既存の資料リストの再検討、資料の一時保存のための手配などが中心となりました。この時､平成 28（2016）年は、カサド・原夫妻にとっての記念の年であることから、資料の公開に向けて本格的な活動を開始しました。翌年以降は、既存の資料リストの充実に重点を置き、特に、これまでに寄せられた問い合わせも多かった、楽譜やプログラムなど、夫妻の音楽活動に関する情報の補足・調査に力を入れています。また、初年度末より、年に 1 度、カサド・原プロジェクト報告会を開催しており、毎回、メンバーによる活発な意見交換がなされています。

5.　平成 28（2016）年のカサド没後 50 年、智恵子没後 15 年記念イヤーにむけて

先述のとおり、平成 28（2016）年は､「ガスパール・カサド没後 50 年 原智恵子没後 15 年」にあたる記念の年であることから、同プロジェクトの成果としてガスパール・カサド及び原智恵子関係資料目録の刊行とともに、カサド・原智恵子両氏を顕彰する記念行事の開催を予定しています。現時点で、目録は、オンライン・データベースと冊子による公開を、記念行事につきましては、記念シンポジウムと記念演奏会および特別展の開催を計画しています。これらの詳細については決まり次第、当館のホームページ上で随時お知らせを行う予定です。

カサド・原資料が、多くの方々に必要とされ、利用していただけるよう、当館一同、今後とも努めてまいりたいと思います。今後とも、皆様のお力添えをいただけますようお願い申し上げます。

玉川大学教育博物館
http://www.tamagawa.jp/campus/museum/

（くりばやし あかね）

【第 58 回研究例会】

例会傍聴記

西巻 悦子

2015 年の IAML 日本支部総会は、雨模様の中、6 月 6 日（土）に東京音楽大学付属図書館を会場に開かれた。2014 年度の日本支部の活動及び会計報告と、2015 年度活動計画、予算についての審議が行われ、今後の活動の活性化を期して可決された。

総会後、休憩をはさんで荒川恒子支部長の基調講演が行われた。テーマは「日本支部の課題」である。まず、本部の規約が変わったという前振りがあり、それがどのように変わり、日本支部はどのような課題に取り組むべきかという話から始まった。

多くの規約が変わった。例えば、総会は毎年開催される国際大会 (International Congress) 中に開かれるということ。総会を毎年開催することは、既成事実を必要に応じて成文化したということである。また、実行手続きに煩雑な部分があったが、従来のカウンセル・ミーティングを廃止し総会に一本化して簡素化することとなった。支部代表者会議が設置され、荒川支部長が参加するということである。そこでは、各国の抱える問題等具体的な話題も出ており、日本支部でも取り組むべきではないかと考えておられるということである。なお、今期のプレジデントは Barbara Dobbs Mackenzie 氏の就任が昨年ウィーン大会で承認され、図書館員ではないプレジデントが誕生したとのことである。

また、IAML 日本支部のホームページに支部の歴史が 2014 年まで掲載されている。荒川支部長は 1980 年のケンブリッジ大会から、出席されておられ、2002 年、2005 年、2014 年、2015 年と役員をなさっているとのこと、日本支部では若い方の総会出席のための支援を行なっており、そのことに参加各国が関心を示されたということを取りあげてお話くださった。さらに、支部代表はそれぞれの国の立場や問題点を出すこと、代表者を出すこと、それぞれが協会と相いれないことはしてはならないが、アクティヴな活動ができ、専門性を持つ図書館員の育成が必要であろうということが共通認識であるとのことであった。そのため、IAML の活動に興味を持つ人を毎年の国際会議に出席させる必要があることも話されたそうだ。支部長としては支部が国際的な活動から遠くなり、日本支部だけになってしまっていないかを常に意識し、本部との迅速なやり取りが大事であるとのお考えを示された。会計では担当の小倉洋子さんが対応されておられるそうだが、アメリカ・スウェーデン・カナダ等本部グループ内での情報網ができており、メールで連絡が飛び交っているため、興味を持って迅速に対応することが要求されているとのことであった。例えば、コピーライトの専門家はいないかという問い合わせがあった時には、地域にコネクションを持つ人をお探しということがわかり、国立音大の市川啓子さんがおられたので、その時はそれでよかったのだが、これからは若い会員を育てなければということも痛感されたそうである。

年々、大会の参加者は少なくなってきており、日本も同様であるが、日本支部として行動できる分野の検討の必要があるという点を強調なさっておられた。また、現場で業務に携わる人が参加することにより一層、国際的に貢献できるのではないかということも話された。現場の問題を知るということは日本支部の課題の一つで、実際に現場で働く人たちに貢献するようにしなければ、ということも話された。参加するには財政的裏付けも必要だが、会員個々人の関心があるところに特化した問題を掘り下げ、国際大会にも積極的に参加し問題提起をするよう

な行動する支部となっていきましょうと力強いアピールで締めくくられた。

質疑の時間ではフロアから、実績を出す必要もあるとのご発言があった。また、研究会ではなく、ライブラリアンを育てる団体であることを確認すべきだという意見が出された。また、グローバルな場で、日本も参加して提案できるよう、何をサポートできるか討議する場を設けてはというご提案も出された。また、図書館館全体の課題は山積しているが、団体としても個人でも入ることのできる IAML には、他の図書館組織にはない良さがあり、期待することが多いという発言があった。音楽図書館の課題が様々な角度から話し合われ、音楽関係の図書館が過渡期にあるという共通認識を出席者全員が共有できたと感じた。

最後に、荒川支部長のお話から将来の展望が出てきたようだという司会者のまとめがあり、今度、ニューヨークで開かれる会議の結果をふまえてこれから行動していこうということで終了となった。荒川会長の深い御経験と広い人脈から数々のエピソードが話され、大変興味深い内容であった。学会や研究会とは性格の異なる団体であり、現場を如何に支援するかという設立の趣旨に立ちかえり、そこから課題を照射してくださったので、質疑応答も活発になされ、今後の IAML を展望するために非常に役立つ講演であった。具体的な行動に移すには時間がかかるかもしれないが組織として対応してゆくという共通認識を出席者全員で共有でき、初めて総会に出席した私も荒川支部長の志に感動して、微力ながら IAML 日本支部の活動に積極的に参加したいという思いを抱いた。

休憩をはさんで、玉川大学教育博物館の栗林あかね氏から「ガスパール・カサドおよび原智恵子関係」音楽資料について紹介があった。玉川大学教育博物館は、玉川大学の創始者・小原國芳氏が全人教育の理念に基づき玉川大学の高等教育附置機関として建てた博物館である。調和ある人格を持った「全人」を育てるという理想のもとに「本物に触れよ」という思いで収集されたとのことである。所蔵数は 6 万点近くあり、学芸員資格取得希望者に対する教育活動が行なわれている施設である。

原智恵子の御家族から音楽活動に関する資料の寄贈申し込みがあり、ガスパール・カサドおよび原智恵子関係資料は、楽譜、レコード等の録音資料、演奏会プログラム・チラシ、図書、写真、書簡、演奏会評などが保管および展示されて現在に至っているとのことである。常設展示には、ガスパール・カサドの妻・原智恵子愛用のピアノなどがある。資料受け入れの経緯は、御家族からの申し出の後、フィレンツェから船便で届いたとのことであった。1997 年秋にカサドの記念コンサートを開催して資料を展示するために整理したとのことである。現在は常設展示ではないが、2012 年に「ガスパール・カサド及び原智恵子関係資料整理・調査プロジェクト」を学内外の研究者・有識者の参加を得て発足されたとのことで、毎年度末に報告会が開催されている。栗林あかね氏のご尽力によりカサドの自筆譜や手稿譜がパワーポイントでプレゼンされ、視覚情報が提供されたため、理解しやすく大変興味深かった。2014 年度から 2015 年度にかけて、演奏会プログラムのデータ入力が行なわれているとのことである。

プレゼン終了後、フロアから発言があり、原智恵子関係の写真等資料所持のことや、資料の内容について研究者からの注目点などの質疑応答がなされた。栗林氏の講演から、音楽関係資料の奥深さ幅広さを知り、音楽関係資料はこれからますます重要さを増すであろうと感じられ、筆者にとっては意義深いものであった。

（にしまき えつこ　昭和音楽大学非常勤講師）

国際音楽資料情報協会（IAML）日本支部 2015 年総会報告

日時：2015 年 6 月 6 日 (土)　午後 1 時～ 2 時
場所： 東京音楽大学付属図書館 5 F
出席者 (18)：　荒川恒子、伊東辰彦、稲葉良太、小倉洋子、金沢正剛、岸本宏子、栗林あかね、佐藤みどり、澤田宏美、田島克実、藤堂雍子、西巻悦子、長谷川由美子、平岩寧、正木光江、山本宗由、林淑姫、東京音楽大学付属図書館
委任状提出 (39)：　天野裕介、飯山かおり、石田康博、伊藤真理、植田栄子、加藤信哉、金井喜一郎、加納マリ、久保田慶一、佐古純子、佐々木勉、上法茂、関根和江、関根敏子、土田英三郎、寺本まり子、中西紗織、羽柴明美、樋口隆一、星野宏美、細田勉、三田智子、村井範子、山田晴通、大和紘子、米田かおり、上野学園大学音楽・文化学部図書館、エリザベト音楽大学附属図書館、大阪芸術大学図書館、関西学院大学文学部美学芸術学専攻、国立音楽大学附属図書館、昭和音楽大学附属図書館、同志社女子大学図書・情報センター、同朋学園大学部附属図書館、桐朋学園大学音楽学部附属図書館、名古屋芸術大学附属図書館、フェリス女学院大学附属図書館、明治学院大学図書館付属日本近代音楽館、武蔵野音楽大学図書館
会員総数： 72 (個人会員 56、団体会員 16)

Ⅰ　開会挨拶　　荒川恒子支部長
Ⅱ　議長選出　　田島克実氏
Ⅲ　総会成立の確認
　出席者 18 名、委任状提出 39、合計 57。
　会員総数 74 の過半数に達し、総会成立。
Ⅳ　議案審議
1 . 2014 年活動報告 (資料①)
　会員の異動
　入会：　澤田宏美氏、西巻悦子氏
　退会：　森佳子氏、劉薇氏
　　承認
2 . 2014 年会計決算報告並びに会計監査報告 (資料②)
　　承認
3 . 2015 年活動計画 (資料①)
　　承認
4 . 2015 年予算案 (資料③)
　　承認
5 . 基金制度の見直しについて
　従来の「会員参加補助金」より「会員サポート及び会運営維持基金」（仮称）への移行について役員会より提案。
　従来の「会員参加補助基金」制度は、若い世代の会員の国際大会参加を奨励するために設けられた基金である。したがって、その使途は大会参加助成金（各 10 万円）に限定される。現在基金の残高は 30 万円余ある。今回提案された新制度は、従来の基金制度の主旨を活かしつつ、その使途を広げ、支部運営、次世代の育成等を目的とする種々の企画実現のためにも運用される。但し、旧基金の残高は旧来の主旨に限定して用いられる。支部運営に要する経費は年会費収入を上回っている。そうした状況の中で会費の値上げを極力抑え、かつ支部活動の将来的にもより安定した運営を計るために提案された。
　出席者より旧来の主旨を忘れずに運用がなされるよう重ねて希望が表明された。
　　承認
Ⅴ　議長解任
Ⅵ　ニューヨーク国際大会代表出席者
　荒川恒子支部長

* 総会に先立ち、総会通知送付の際の不手際について支部長より謝罪。

(文責・長谷川由美子)

資料①

2014 年活動報告および 2015 年活動計画

	2014 年活動報告	2015 年活動中間報告及び予定
国際大会	アントワープ国際大会 2014 年 7 月 13 日 -18 日 出席者 : 荒川恒子、藤堂雍子、山田晴通 代表出席者 : 荒川恒子（支部長） 発表： 山田晴通、松江万里子（ベルギー在住）	ニューヨーク国際大会 2015 年 6 月 21 日 -26 日 出席者 (予定): 荒川恒子、藤堂雍子、関根敏子、樋口隆一 代表出席者 : 未定
総会	2014 年 6 月 8 日（日） 場所 : 東京芸術劇場ミーティングルーム 5	2015 年 6 月 6 日（土） 場所 : 東京音楽大学付属図書館
役員会	2014 年 3 月 28 日（金）（東京文化会館応接室） 2014 年 5 月 28 日（水）（飯田橋・ルノワール） 2014 年 6 月 26 日（木）（マイスペース高田馬場店）	2015 年 1 月 22 日（木）（東京文化会館応接室） 2015 年 3 月 26 日（木）（東京文化会館応接室） 2015 年 6 月 6 日（土）（東京音楽大学付属図書館）
研究例会・集会	第 56 回研究例会 2014 年 6 月 8 日（日）（東京芸術劇場ミーティングルーム 5） 「音楽博物館」を考える 1. 音楽図書館から音楽博物館へ － 民音音楽博物館開館 10 周年を迎えて 上妻重之（民音音楽博物館） 2. 音楽博物館の存立基盤を探る － ポピュラー音楽系小規模展示施設の日米比較から 山田晴通（東京経済大学） 第 57 回研究例会 2014 年 11 月 29 日 (東京音楽大学付属図書館) 「公共図書館と音楽」 1. 大阪府吹田市公共図書館における音楽資料の現在 森万由美（吹田市立中央図書館） 2. 吹田市公共図書館の音楽資料書誌データについて 田島 克実（㈱トッカータ） 3. 導入 : IAML と公共図書館 岸本宏子（昭和音楽大学） 4. ディスカッション： どうすれば出来る？ 音楽のある夢の公共図書館	第 58 回研究例会 2014 年 6 月 6 日（日）（東京音楽大学付属図書館） 1. IAML 日本支部の課題 荒川 恒子（IAML 日本支部長） 2. 玉川大学教育博物館における音楽資料 －ガスパール・カサド及び原智恵子関係資料を中心に 栗林 あかね（玉川大学教育博物館） 第 59 回研究例会 （未定）
ニューズレター	第 49 号 2014 年 1 月 30 日 ウィーン国際大会報告、ほか 第 50 号 2014 年 5 月 25 日 第 55 回研究例会および韓国国際会議報告、ほか 第 51 号 2014 年 9 月 30 日 第 56 回研究例会および総会報告、ほか	第 52 号 2015 年 1 月 30 日 アントワープ国際大会報告、ほか 号外（特別号） 2015 年 2 月 10 日 第 53 号 2015 年 5 月 25 日 第 57 回研究例会報告 第 54 号 2015 年 8 月（予定） 遠山一行初代支部長追悼号 第 55 号 2015 年 9 月（予定）
ホームページ更新 / ニューズレター掲載	IAML 日本支部サイトのファビコン（favorite icon）作成（6/28） 外部サイトをフレーム内で表示しないように変更（7/10） ニューズレター掲載 43 号（6/25 修復掲載），49 号（6/6），50 号（6/6），51 号（10/17） その他必要な更新や修復および掲載	ニューズレター掲載 52 号（2/23），号外（3/10），53 号（5/26） その他必要な更新や掲載
その他	フォンテスへの最新ニュース提供（2014 年 12 月 16 日） 本部への会費送金（2014 年 3 月 14 日）	国立国会図書館「音楽資料・情報に関する遠隔研修教材の開発に対する意見聴取会」に林副支部長を派遣（2015 年 1 月 16 日） フォンテスへの最新ニュース提供（2015 年 3 月 9 日） 本部への会費送金（2015 年 4 月 23 日）

資料②

2014 年決算書

IAML2014年決算12月31日

費　　目	2014年度 予算	2014年度 決算	予算決算差額	備考
前年度繰越:				
現金	-52,779	-52,779	0	
郵便局	1,396,626	1,396,626	0	
(内 会員会議参加補助基金)				¥323,000
銀行	183,478	183,478	0	
(小　計)	1,527,325	1,527,325	0	
収入:				
未収会費				
2013年以前				
個人	18,000	18,000	0	
団体	0	0	0	
会費2014年				
個人	0	138,000	-138,000	
団体	0	14,000	-14,000	
利息	20	31	-11	
会費2015年				
個人	342,000	204,000	138,000	個人58(内名誉会員1)
団体	252,000	238,000	14,000	団体18
雑収入	0	0	0	
(小　計)	612,020	612,031	-11	
会員会議参加補助基金	0	4,000	-4,000	
(収入小計)	612,020	616,031	-4,011	
収入総額	2,139,345	2,143,356	-4,011	
支出:				
本部宛会費送金	391,659	391,659	0	2745.60EURO/1EURO=142.65YEN
予備費	30,000	0	30,000	
経常経費:				
RILM分担金	60,000	60,000	0	
RILM Fontes編集委託費	40,000	40,000	0	RILMに委託しているFontesのための編集に対して
大会代表派遣費	200,000	200,000	0	2013年、14年の2年分
関連団体会議参加費	10,000	0	10,000	
ニューズ・レター	50,000	49,840	160	
会議費、例会費	40,000	27,858	12,142	
交通費	70,000	20,781	49,219	
通信費	80,000	67,902	12,098	
消耗品費	40,000	5,813	34,187	
雑費	5,000	3,418	1,582	
アルバイト代	10,000	0	10,000	
HP運営費	25,000	24,567	433	ドメイン利用料年額/レンタル・サーバ料金は4年に1度
(経常経費小計)	630,000	500,179	129,821	
会員会議参加補助基金	100,000	0	100,000	
支出総額	1,151,659	891,838	259,821	
次年度繰越	987,686	1,251,518	263,832	

次年度繰越金	
現金	47,044
郵便局	862,467
(内 会員会議参加補助基金)	(¥327,000)
銀行	342,007
総額	1,251,518

IAML日本支部の2014年会計明細書を精査した結果、適正に処理・記載されていると認めます。

2015年 5月7日

IAML日本支部会計監査

加藤信哉

資料③

2015年予算案

	2015年度予算	2014年度決算	差額	備考
前年度繰越:				
現金	47,044	−52,779	99,823	
郵便局	862,467	1,396,626	−534,159	
(内 会員会議参加補助基金)				¥327,000
銀行	342,007	183,478	158,529	
	1,251,518	1,527,325	−275,807	
収入:				
未収会費				
2014年以前				
個人	18,000	156,000	−138,000	
団体	0	14,000	−14,000	
会費2015年				
個人	0	204,000	−204,000	
団体	0	238,000	−238,000	
会費2016年				
個人	336,000	0	336,000	個人56
団体	252,000	0	252,000	団体18
利息	30	31	−1	
	606,030	612,031	−6,001	
会員会議参加補助基金	0	4000	−4,000	
(収入小計)	606,030	616,031	−10,001	
収入総額	1,857,548	2,143,356	−285,808	
支出:				
本部宛会費送金	336,080	391,659	−55,579	2816.00EURO/1EURO=130.00YEN
予備費	30,000	0	30,000	
経常経費:				
RILM分担金	60,000	60,000	0	
RILM Fontes編集委託費	40,000	40,000	0	
大会代表派遣費	100,000	200,000	−100,000	
関連団体会議参加費	10,000	0	10,000	
ニューズ・レター	70,000	49,840	20,160	↑(￥15,000×3回＋α)+増刊号
会議費、例会費	30,000	27,858	2,142	↓
交通費	30,000	20,781	9,219	↓
通信費	80,000	67,902	12,098	↑クロネコメール便廃止による送料増
消耗品費	10,000	5,813	4,187	↓
雑費	5,000	3,418	1,582	
アルバイト代	10,000	0	10,000	
HP運営費	25,000	24,567	433	
(経常経費小計)	470,000	500,179	−30,179	
会員会議参加補助基金	100,000	0	100,000	
支出総額	936,080	891,838	44,242	
次年度繰越	921,468	1,251,518	−330,050	
(内本部宛会費送金＋経常経費)	806,080	891,838	−85,758	
(内 会員会議参加補助基金)	327000	327,000	0	

「会員サポートおよび支部活動支援のための基金」への御寄付のお願い

IAML 日本支部長　荒川恒子

このたび、2015 年度総会における承認を経て、基金制度「会員サポートおよび支部活動支援のための基金」を新設することになりました。

本基金制度は、旧「会員大会参加補助基金」に代わる制度として設けられました。旧「基金」における若い世代の IAML 国際大会参加奨励の主旨を活かしつつ、その範囲を広げ、次代を担う若手会員のサポートおよび支部活動支援を目的としております。

昨今の経済的な環境は支部運営にも深刻な影響を与え、支部に課せられた幾多の問題への取り組みを困難にしております。支部の活動運営費は長年にわたって年間の会費収入を上回っており、過去に蓄積された資産を不足分に充当して運営されて参りましたが、その蓄えも近い将来尽きることは目に見えております。会費の値上げは、会員の確保ならびに新規会員の獲得を図るためにも極力避けて参りましたし、今後とも、少くとも当分の間は、できるだけそうした事態を迎えることのないよう願っております。

IAML 日本支部が将来的にも安定して運営され、活動を推進してゆくためには、新たに基金制度を設け、皆さまの御協力を仰ぐ以外にありません。

如上の事情を御理解賜り、会員各位のお力添えをいただきたく、ここにお願い申し上げます。

本基金制度は、2016 年度の会費納入とともに発足致します。本年末の会費請求時に改めて御寄付をお願い申し上げますので、御協力賜りますよう何卒よろしくお願い致します。

2015 年 9 月

【事務局だより】

ニューヨーク大会終わる

ニューヨークで開催された本年度 IAML 国際大会は、6 日間の会期を終えて 6 月 26 日閉会した。来年はローマでの開催が予定されており、現在発表を募集中。（4 面参照）

国際研究集会「デジタル時代における東アジア音楽の研究」開催（韓国）

9 月 12 日、韓国、台湾、日本の研究者による国際研究集会が、韓国ソウルの梨花女大学音楽学部で開かれた。日本からの発表は、長谷川由美子「『近代日本刊行楽譜総合目録　洋楽編』公開へのプロセス」、伊藤真理「デジタル環境での音楽ライブラリアン養成 ― 日本での課題」の二つ。

＊秋の支部研究例会は、11 月 28 日（土）午後、国際基督教大学（ICU）で開催されます。詳細は追って、支部サイト等でお知らせ致します。

Newsletter ―国際音楽資料情報協会日本支部
第 54 号

2015 年 9 月 30 日発行
国際音楽資料情報協会（IAML）日本支部
〒 171-8540　東京都豊島区南池袋 3-4-5
東京音楽大学付属図書館内
http://www.iaml.jp